

# 第十七回企業活性化研究分科会・議事録

<第十七回 2008年1月24日(土) 時間:13:30~17:00 於:専修大学(神田校舎)>

1. 参加者:山本、井端、太田、大野、木村、古山、大柳、渡邊、横山、星野、菅原、宮川、齋藤、酒井、杉本

2. テーマ:企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ:『継続企業の前提に関する分析 (TYPE I)』

・報告者:斎藤幸雄(専修大学大学院)

・配布資料:15枚

・報告内容の要旨

本報告は、株式会社アーティストハウスホールディングスの継続企業の前提について分析したものである。関係会社と財務状態との関係、関係会社、取引先及び株主等の資金の流れを中心に分析を行った。

・報告者:杉本敦彦(専修大学大学院)

・配布資料:9枚

・報告内容の要旨

本報告は、株式会社エス・サイエンスの継続企業の前提について分析したものである。この会社は6年連続の赤字による理由から継続企業の前提が付されている。この会社は株式の発行により運転資金を賄っており、実際は倒産していてもおかしくない財務状態であった。

・報告者:酒井友也(専修大学大学院)

・配布資料:11枚

・報告内容の要旨

本報告は、昭和ゴム株式会社の継続企業の前提について分析したものである。2003年には継続して営業損失および営業キャッシュ・フローのマイナスを計上し、その後、改善をみせるも2008年には再び営業キャッシュ・フローでマイナスを計上したことから継続企業の前提に関する注記が再び付された。新株予約権などの発行によって資金を調達しているために倒産しないと考えられる。

4. その他

次回の日程

・3月28日(土) 専修大学(神田校舎)

・4月11日(土) 専修大学(神田校舎)

(文責:杉本敦彦)